

事業所名	グループホーム ひろむし ※
日付	平成19年7月17日
評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター
評価調査員	介護支援専門員・介護福祉士 介護支援専門員・介護福祉士・認知症ケア専門士
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る (改善状況のコメントがあります！)※	

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	<p>ご利用者さんが、ここに居て良かったと思ってくださるよう、安心・安全に穏やかに暮らせるよう、また、できることはご本人にして頂き、機能低下が防げるよう他者との共同生活を楽しく頂く、介護者は利用者进行を思い、愛を持って落ち着いて暮らせるよう、家族と連絡を密に取り、ADL生活精神面とも支援していきたい。</p> <p>(その人にすぐ対応できるよう、常に研修参加し、職員の質向上に努めている。)</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<p>各家庭から使い慣れた家具や調度品、持ち物、衣類など持ってきて頂いています。各居室で一人になる空間と共有スペースで居心地の良い席、気の合う方と落ち着ける場所の確保をしています。その人個人の特徴、残存能力を活かす方法で趣味活動への参加により、精神が安定される支援を行っている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人ですることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

1. 評価結果の概要

講評
全体を通して (特に良いと思われる点など)
日本の伝統文化であり、夏の風物詩のひとつでもある、和文字焼の山をバックに新緑の峰は静かな環境で春夏秋冬の四季感を肌で直接感じ、日常生活が心豊に安心して暮らせる暖かいグループホームの全景の姿である。
理念「笑顔と初心を忘れず温かい心で質の高いサービスに努めます」「福祉の心を基本として期待と信頼に応えます」「守秘義務を厳守します」広虫荘の由来である和気広虫姫(和気清盛公の姉)は奈良時代に社会事業にたいへん貢献されました。その名にちなんだ社会福祉法人広虫荘グループである。福祉の原点、介護従事者職員、グループホーム入居者が自然に笑顔と和が完成されていて温かい関わりが見受けられました。
併設ケアハウスや隣接施設等もあり、また協力病院(北川病院)医療機関も密に連携し、入居者の方々の緊急対応が迅速に図られています。(家族の方からも、「健康状態に合わせその時その時臨機応変に処遇して頂き、安心して御願ひできます。」との声もあります。)(評価当日も血圧が高くなされた人の気配りがなされていました。)(朝の歌声も入居者、職員のハーモニーが温かい一つの会話のような流れで耳にする事が出来ました。)(併設施設のメリットは温泉気分入浴の楽しみ、レクリエーション、メニューの工夫、栄養バランスの食事提供など)地域への交流、保育園・学校への見学、図書館へと活動が幅広く身体機能筋力低下防止の散歩に活かされた自立支援、自己決定を踏まえた援助が図られています。また一方で入居者、家族、スタッフみんな一丸となって、ちぎり絵を作成、完成した喜びは観賞をしましたが重さを感じさせる見事な作品でした。研修発表として県、中国大会へと熱意があり、笑顔の満ち溢れるグループホームチームワークでした。
特に改善の余地があると思われる点
特にありません

III ケアサービス (つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<p>家族から話を聞き、ご本人の過去、経緯などを知り、日ごろの様子を見てできることはご本人にさせていただきます。</p> <p>更衣・排泄面では各居室内で羞恥心のないよう声かけをすませます。</p> <p>各々に応じた食事(刻み・とろみ・好みなど)また、そばにいて声かけ介助等行っております。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	<p>職員間の伝達事項で、問題を提示し、話し合い、改善提案をし、共通意識を持って支援できるよう努力しています。(ヒヤリハット・職員会議・内部研修等)(職員は全員パソコン入力できるよう、共通認識づくり。)</p>		